

=市史編さん便り= 【9号】 令和5年6月6日(火)発行.

*****土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

「令和5年度沖縄ジョン万次郎会総会」で講演(90分間)

「少年万次郎を育んだ中浜浦—土佐清水市史の視点から—」

豊見城市社会福祉センター2階ホール, 4日(日)14時~15時30分

午後1時から総会を開始。本年度の事業報告・決算・会計監査報告、来年度事業計画・予算などが承認され、総会が終了した。午後2時からの講演会には、豊見城市・徳元次人市長、豊見城市議会・外間剛議長、NPO 法人琉球万次郎会・徳元孝進会長などの来賓や「琉球新報」「沖縄タイムス」などの報道機関を含め約85名もの参加者があった。



この講演は、平成5年2月3日に旧豊見城村（現豊見城市）と土佐清水市がジョン万次郎の縁で姉妹都市縁組をおこなって30年を迎える佳節の年を記念して開催されたものである。当生涯学習課市史編さん室としても、市史普及啓発の流れを全国に発信していく、またとないチャンスであり、万次郎つながりでその波動を広げたいと考えている。

講演内容は、「①自己紹介→②土佐清水市史編さん事業の内容→③琉球と土佐清水の不思議な縁→④近世中浜浦の様相→⑤足摺岬沖合漁場とその自然環境→⑥『中浜東一郎日記』の土佐紀行→まとめ」という流れで進めていった。

琉球と土佐清水は不思議な縁がある。中国に代々朝貢貿易していた貿易船は、福州(中国

南部沿岸に位置)からの帰途、黒潮に流され度々漂流・遭難した。日本に動力船が導入されたのは明治末から昭和初め頃である。それ以前は、風や海流を読み、卓越した航海技術や経験がものを言う時代であった。

③では、土佐藩の史料を見ると、近世に琉球貿易船が土佐国に漂着したのは4度。寛永17年(1640)佐賀浦(現在の黒潮町佐賀)、宝永2年(1705)土佐清水浦(現在の清水港)、宝暦12年(1762)柏島浦(現在の幡多郡大月町柏島)、寛政7年(1795)下田浦(現在の四万十市下田)などに漂着した。特に、宝永2年の土佐清水浦漂着では、奥間親雲上(琉球王国の士族の称号)ほか81名もの乗員が5か月近く土佐清水浦に滞在した。薩摩藩役人が迎えに来て、薩摩山川を経て、琉球に返り着いたのは遭難から実に7か月を要していた。

土佐清水浦滞在中に一人の琉球人水夫が亡くなった。恐らく病死と思われる。その墓は、本清水の丘陵上に建てられた蓮光寺墓地の一角にある濱田家墓所に当時浦庄屋濱田五右衛門(5代目)によって丁寧に埋葬されている。この歴史は、万次郎が誕生する実に112年前のエピソードである。

⑤では、近世土佐カツオ漁業史、カツオ節加工の歴史について触れ、1600年代半ばに紀州印南浦海民によって漁場開発がおこなわれたこと。近世後期中浜浦に山城屋が隆盛し、万次郎の少年時代に浦集落を牛耳っていたこと。そのような環境下で万次郎はたくましく生きてきたこと。宇佐浦船籍のカツオ船に就職した理由などについて検討した。

⑥では、万次郎長男・東一郎が明治7～15年、明治24～昭和12年まで記録した『中浜東一郎日記』の「明治8年土佐紀行」や「万次郎臨終の日の動向」などについて触れ、親子の帰省した中浜浦での生活や臨終の様子について紹介した。

最後に、万次郎をその業績のみで捉えていくのではなく、その生き方を自分と重ね合わせながら万次郎を探求することの大切さを述べた。人生とは「いかに死に」「いかに生きるべきか」万次郎を通じて自分の人生を探求することが重要であると講演を締めくくった。

◎ジョン万次郎上陸之地記念碑を見学しました！



万次郎は、嘉永4年(1851)旧暦1月2日にこの大度浜海岸に上陸した。この海岸はサンゴ礁の浅瀬が長方形に広がっており、サンゴ礁の切れ間があり、外洋に離岸流が発生していた。アドベンチャー号は初めにここに舟を付けたが、上陸には適さないとの地元民のアドバイスもあり、そこから少し離れた浜に舟を着けた(左上写真)。そこで万次郎たちはコーヒーを飲んで一服したと伝えられる。そうこうしているうちに、琉球の間切番所役人が来て、万次郎等を番所に連れて行った。

那覇で詳しく取り調べを受けることになっていたが、急遽、その手前の高安家に滞在し、そこで取り調べを受けることになった。高安家では母屋を万次郎たち3人の宿舎にあて、自分たちはその左脇に茅葺の小屋を建てて生活した。

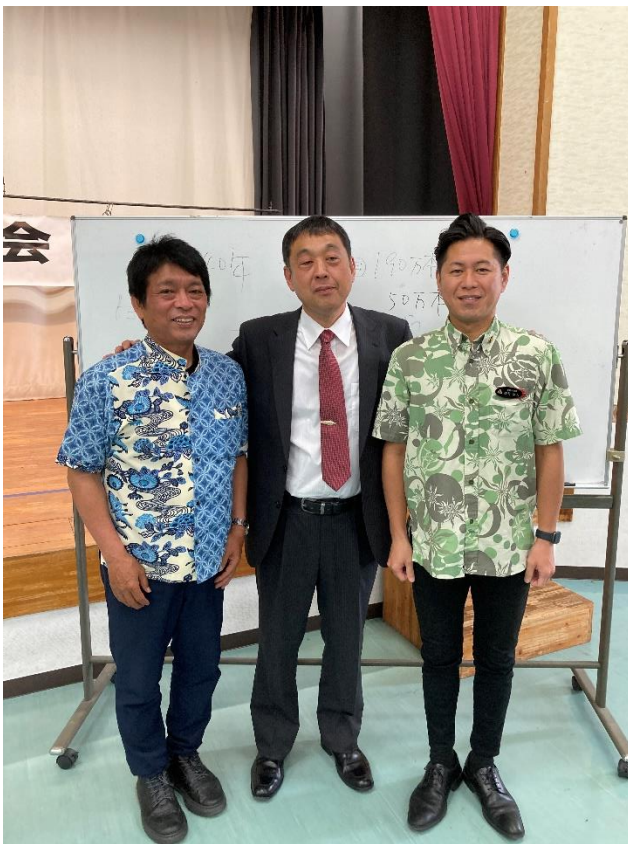
沖縄ジョン万次郎会・赤嶺会長に連れられ、その高安家を訪問させていただいた。そして、当代当主・高安英明氏にごあいさつした。高安家の門をくぐると、正面に万次郎が外出のときに飛び越えたと伝わるヒンブン(魔除け)があった。かなり高く、若き日の万次郎の跳躍力のすごさを実感した。



↑正面の長方形の構造物がヒンブン



↑左から赤嶺会長、高安英明氏、田村



↑左、豊見城市議会・外間剛議長。
中、市史編さん室・田村公利。
右、豊見城市・徳元次人市長。



↑ 姫ゆりの塔で献花、合掌。



↑ 沖縄そば